

1, 教育・保育理念 「子ども第一」

当園の教育・保育は、乳幼児の人格形成の基礎を養うことを目的としている。子どもがすくすくと育ち、その子なりの成長をもって、幸せに社会に貢献できる人に育つことである。そのために、園はすべての教育・保育が子どもの成長を第一に整えられるべきだととらえる。

子ども第一として、子どもの生活の基盤をなす家族、主に保護者とともに、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かになるよう、育ちのパートナーとして協力しあい、園の活動を進めていく。

2, 令和5年度の重点課題

保育の意味を再検討し、質の向上を図るとともに、目標を明確にする。

具体的取組内容

- 毎月の職員会議で、年間行事や活動について意味や狙いを全員で確認する。
- 造形作品については全クラスで話し合い、ねらいや方法について各学年の違いを知り、理解を深める。

取組結果として

日にち	内 容	日にち	内 容
4/8	園内研修の在り方について	10/14	お遊戯会について
5/13	運動会について	11/11	百幼の給食とは
6/3	夏祭りについて	12/23	振り返り（カリキュラムマネジメント）
7/8	お泊り保育について、カプラについて	1/13	お店屋さんごっこについて
8/19	百幼フェスについて	2/3	事務の在り方について
9/9	ハロウィンについて	3/23	振り返り（カリキュラムマネジメント）

職員の意見

- 職員間で保育の目的を共通理解できたことで、取り組みやすく素早い判断や対応ができた。
- 初任者にとっては園の内容を理解する大事な機会であり、保育理念を共有するのに、とても役立った。
- 各学年の試作を見たり話し合ったりすることで、発達に合わせた保育の方法のヒントが得られた。

3, 総合的な評価

① 園内研修実践からの評価（A:十分な成果有 B:成果有 C:少しの成果 D:成果なし）

評価	理 由
B	職員同士話し合いをしたり、園長が取り組みの経緯などを説明することで、実際にどんな目的で行事が行われているかを知ることが出来、保育計画がスムーズになった。また、目的が明確になり、一丸となって保育に当たることが出来た。内容については話し合いたい項目がまだあるため、今後の課題となった。

② 職員自己評価からの評価

回答 22/29	保育士 11 名	調理員 3 名	事務員 2 名	全職種 6 人
高スコア 1	13.家庭との連携 (在園児) 3.39	8.衛生管理 3.74	1.基本的理念と社会的責任 3.17	9.食育の推進 2.88
2	7.3 歳以上児のねらいと内容 3.30	9.安全管理 3.59	4.環境・衛生管理 2.80	6.1～3 歳未満のねらいと内容 2.80
3	6.1～3 歳未満のねらいと内容 3.16	12.家庭との連携 (在園児) 3.33	9.職員の資質向上 2.71	11.環境・衛生管理 2.76
低スコア 1	12.災害対策 2.37	11.関係機関との連携 1.50	2.計画・評価 2.00	14.家庭との連携 (地域) 1.55
細項目： スコアの低い順	12-8.ハザードマップを把握している 12-2.災害対応マニュアルを用意し、読み込み、十分に理解している	11-3.小学校と連携し、子どもの食育の連続性に配慮している 1-4.保育所の「食」の質の向上のために、保健所、医療機関等、地域他機関と連携が図られている	2-2.行事等のスケジュールについて、年間指導計画により、長期的な見通しをもち、保育士と共有している 2-1.保育の全体的な計画に基づき、計画的な備品管理を行っている 2-3.日々の保育の連続性や季節の変化を考慮した掲示物や備品配置をして園内環境を整えている	14-3.地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している 14-1.関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している
2	4.特別支援・障がい児保育 2.63	13.家庭との連携 (地域) 2.00	3.安全管理 2.25	12.災害対策 1.87
細項目： スコアの低い順	4-3.特別支援の担当は、園内外問わず、研修等を通じてそれら保育に必要な知識を得ている 4-5.医療機関や療育機関などから相談や助言を必要に応じて受けている 4-7.障がいのある子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている	13-1.地域の保護者の不安解消や相談に対応できる体制を整っている 13-2.地域の保護者に向けて、「食」への意識が高まるような支援を行っている 13-3.地域の子育て支援の関係機関と連携して、情報発信や情報交換、講座の開催、試食会などを行っている	3-2.園内で事故の起きやすい場所を把握している 3-3.包帯等の応急処置用品の在庫管理を行っている 3-4.事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどを理解し、実践している	12-4.保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している 12-3.消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている

(考察) 各項目について、高スコアは、各分野で関わりの深い部分に集中している。強みを理解している。スコアの低い部分は取り組みがなされていない部分もあり、実際は取り組まれていてもより良い状況を目指していてスコアが低くなっている部分もある。(黄色部分) また、職種として実際にかかわることが少ないためにスコアが低い、園としては取り組んでいるものもあった。(青色部分) 自己評価として自分のことを答えているので、全職種(子育て支援員、運転手)などは、仕事でかかわることが違って両極端なスコアになり、全体を引き下げている部分があった。最近天災も多いことから、改めて全職員が自分事としてとらえることが出来たことで安全管理を見直したいと考えており、次年度の課題とする。

4, 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
園の取り組みの意図や様子を、家庭や社会に見える化する	50周年を迎えることを機に、より家庭や社会に園の取り組みや保育の意図や成果などをお示しし、幼児教育の重要性を説明し、乳幼児の教育環境整備への理解を得たい。